

# futbol y vida

Poco a poco ...  
Poco a poco ...



2023 Team “新たな景色”を見に行く!!  
一年間サポートありがとうございました!!

## 2022年 片倉高校サッカー部一年間のスケジュールが無事に終了!!

保護者の皆様、今年も大変お世話になりました!! 感謝 感謝 感謝...

2022年もいよいよ大晦日を残すだけとなりました。片倉高校サッカー部は、24日よりスタートした『川崎カップ～東京ユースフェスティバル～片倉 football carnival』の一週間各種大会に参戦し、本日最終日の東京成徳高校とのゲームを持ちまして今年の活動を全て終了いたしました。

一年を振り返ると上半期は二年目に突入した新型コロナウイルスとの闘いの中で、昨年ほどではありませんが部活動は制限の掛かった中で、多くのチームに支えられながら TRM を行い、少しずつ元の日常の活動に近づいていくことができました。春のインターハイ予選は、代表決定戦で工学院高校に悔しい負け方をしましたが、三年ぶりに実施できた菅平合宿や夏の遠征試合は子どもたちを更に成長させ、その結果、10年ぶりの選手権二次トーナメント進出、そして農大一高に勝利して**ベスト16**となり、片倉高校サッカー部にとっては日頃の活動が結果となって表れた飛躍の一年間だったと思います。確かに、続く今年度代表チームとなった國學院久我山高校には木っ端微塵に粉碎されましたが、これも2023年新チームにとっては全国区のチームや選手の基準（レベル）を肌で感じる事ができる経験となりました。チーム内でもレベルの差（意識も含めて）はまだまだありますが、このハードルを下げずにチーム内でレベルアップを図るため冬のトレーニングに励みたいと思います。 <久我山との真剣勝負は大きな財産>



## 冬の恒例行事 “片倉 football carnival” 第一弾が終了!!

サッカー部冬の恒例行事である『片倉 football carnival』の第一弾が終了しました。例年、冬のトレーニング期は何処のチームも強度の高い厳しいトレーニングを行いチームと選手の強化を図ります。4月からスタートする新シーズンに向けて、この時期のトレーニングは重要になります。また、子どもたちは、このカーニバル期間中は、会場準備に始まり、一日2～3ゲームに出場し、その合間に筋トレやムーブメントに走トレ、終了後には後片付けと翌日の準備までサッカー漬けの日々が続き心も身体も鍛えられました。私学はこの時期に遠征合宿を行いフェスティバルに参戦して鍛えられますが、公立高校ではそれは難しいので環境の差を言い訳にしないようにグラウンドのあるメリットを最大限に活かしてこの形式で“日本最小規模の裏サッカー選手権大会”を行い揉んでもらっています。いつもながら参加校のチームには感謝の言葉しかありません。

「ゲームこそが最高のトレーニング」というように、連日何連戦ものゲームを通して子どもたちはサッカーが上手くなりますが、課題のメンタリティも同様に大きく成長していきます。時間の経過とともに心身ともにキツイ環境のはずですが、今年は最後までお互い励まし合ってクリアしてきました。年々、サッカー部の子どもたちが逞しく成長していくのを感じています。

## W杯カタール大会は見どころ満載!! 決勝戦は過去最高のゲーム!!

12月19日(日)、W杯決勝はアルゼンチン VS フランスとなりました。決勝戦の注目は、今大会で代表から引退する現在世界最高峰のプレーヤーメッシと次世代のスーパースターエムバペの両選手(普段はパリ・サンジェルマンでチームメイト)の闘いでした。決勝戦は、手に汗握る一進一退の好ゲーム。2-2のまま延長戦に連れ込むと、メッシがゴールを決め優勢に立ちましたが、終了間際に獲得したPKをエムバペが決めこの日ハットトリック(今大会得点王)が同点弾となり優勝の行方はPK合戦に。PK合戦ではアルゼンチンGKのマルティネス選手がPKをストップして4-2でアルゼンチンが制し、回目のワールドカップを手に入れました。<優勝はアルゼンチン>



今大会は、日本代表がドイツ・スペインというサッカー強国に勝利し、予選リーグ首位通過するなど国内でも盛り上がりましたが、私たち指導者から見ると好ゲームが多く、特に決勝トーナメントはハイレベルな闘いが続出し、世界のサッカーの進化のスピードに驚愕しました。

私がサッカーに興味を持って初めて見たW杯は、紙吹雪舞う1978年のアルゼンチン大会(アルゼンチンが初優勝)で、そこから今回で12回目になりますが、これだけスリリングでエキサイティングなゲームはありませんでした。世界中のサッカーフリークが熱狂した間違いなく全22回のワールドカップ史上No.1の決勝戦だったと思います。

## この四年間、全ての時間はW杯で勝つために準備をしてきた!!

前回W杯ロシア大会の決勝トーナメント一回戦で日本代表はベルギー代表と対戦し終了間際に自チームのCKから高速カウンターを決められ2-3で敗れました(「ロストフの14秒」)。その悔しさを経験した吉田・長友・酒井選手他計6名の選手たちはこの四年間の全てをW杯に向けて準備をしてきたといいます。多くのことを我慢し、犠牲にして節制した生活を、W杯の舞台に立ちそして勝利するために選手たちを始めスタッフも送ってきました。何かの一つのことを成し遂げるためにはその目標に向かって邁進し精進しなくてはなりません。今回の日本代表の選手はまさに有言実行者でありそこには強い意志と覚悟を感じます。高校生はプロ集団ではないのでベースである学業を真摯に取り組むことは当たり前のことですが土俵は違うにしてもサッカーに対しては高校生活の全てを「本気で」賭けるだけのギラギラした情熱を持って欲しいと思います。全国には「夢に向かい本気で生きている」高校生たちが大勢います。今回選手権都大会で闘い全国大会に出場する国学院久我山高校や成立学園を始め東京にも多くのチームがあります。片倉高校サッカー部も「ど本気」になれる子どもたちが増えてきたら一歩ずつ夢に近づいていけると思っています。2023Teamは果たしてどこまで「ど本気」になれるのでしょうか?期待したいと思います!!

令和五年のK's Footballstyle はピョンピョンと大きく飛躍する!!

